ねえ、もしかして昔、彼は敵を持っていたかしら。あの時代の左派で..., 然し随分前のことですが...
—ところで、この何日か何か準備していたかね。
—≪有産階級≫に付いての記事、と私に言っていました。彼は３、４週間前ですが、マラベージャであの人達の全てが、どう生きどう過ごしているかに付いて、インタビュや問い合わせに何日かを過ごしました。
—それを一人でやったのかな。
—マラベージャにはチェマ エステベスと行きました。彼は雑誌のカメラマンです。しかしインタビュなどは一人で行ったようです。いずれにせよ、ファン ルイス アメストイが何か、知っていますわ。
—ああ、確かに。今迄、気が付かなかった。明日すぐに彼に会ってみよう。ロメラーレスは、何も見つからなかったと言うことだね。
—ええ、少なくとも、何も持っては行かなかったわ。
—もしかしてここに、彼の書斎にヘススはこのテーマについての情報を持っていないだろうか。
—いいえ、ここには何も無いのは確かだわ。ヘススは雑誌に記事を書き、家では読書をするのみでした。
—分かった、明日ファン ルイス アメストイと会って話してみよう、もしかしたら私達を助けてくれるかも知れない。
—何か疑惑が有りますか。
—いいや、その辺りから始めよう。何か分かったら君に電話をするよ。

★ ★ ★ ★

ファン ルイス アメストイは再びペペに会えてとても喜んだ。ファン ルイスはとても忙しい、しかし彼はペペと食事をするためにすべてのことを調整した。